

第28回

留学生里親・里子だより

留学生さとおやの会事務局

〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株) サクラクレバス内 TEL: (06) 6910-8800
FAX: (06) 6910-8837 HPアドレス: <http://www.craypas.com/satooya/index.html>

2018年3月発行

新年交流会

水落 いづみ

さとおやの会のファミリーにとって、毎年の新年交流会は忘れてはならない行事です。この日のアトラクションのためにお正月から、いやもっと前から計画をたて、練習に取り組んだファミリーあり、また、里親と里子が集まって食べながらワイワイ話すがとにかく楽しいですよというファミリーもあります。

そんな新年交流会が今年も1月13日土曜日、大阪日本語教育センターの3階大教室で開催されました。

まず、ボランティアの方々に30名余りの留学生が着物を着せてもらいました。髪の毛のセットと着物の着付けは別々のグループが担当して下さるのですが、まるで綿密な打ち合わせをしたかのように、髪飾りと振り袖の色や模様がピッタリで本当に見事でした。着付けを申し込んでいたのに残念ながら欠席した学生の代わりに、急遽お鉢が回ってきた学生もいて、新年早々のラッキーに喜んでいました。

アトラクションは田仲さんの日本舞踊「おかめえびす」から始まり、西村さんご家族はウクレレとカホンという太鼓の伴奏で「世界に一つだけの花」、竹内さんご家族の剣道の形の紹介、太田さんご家族のダニエルさんの見事なサンバ(実は大学卒業後プロのダンサーになったんです)、豊岡さんご家族の二人羽織(この衣装が通販で入手可能とか)、田仲さんご家族は三太郎のコスチュームで「海のうた」を、西邨さん、新宅さんご家族は「ザ・ダンス」で見事なフォーメーションを披露されました。松澤さんとふれあい独楽のご家族は「ニュージーランドのマオリのラブソング」を会場の皆さんも一緒に歌いました。このあと大阪日本語教育センターの留学生が、ミャンマーの踊りと多国籍でクレヨンしんちゃんの踊りを披露しました。

最後にビンゴ大会で盛り上がり、今年の新一年交流会もお開きとなりました。来年はどんなアトラクションがあるのか、今から楽しみです。ご協力、お手伝いいただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。



交流遠足

今回の遠足は約1年前から予約、前々から行きたかった日清食品の「インスタントラーメン発明記念館」と大阪ガスの「ハグミュージアム」に行きました。祝日の設定が災いしたのか、いつもより少ない46名の参加でしたが、バス1台にゆったりと座って行く事ができました。

「インスタントラーメン発明記念館」では「チキンラーメン」を手作りすることができる「チキンラーメンファクトリー」と世界でひとつだけのオリジナル「カップヌードル」を作ることができる「マイカップヌードルファクトリー」2つの施設があります。今回は贅沢にも両方の体験をすることができました。

小麦粉を手でこね、乾麺機で生地をのばす、麺を切り出す、ざるに入れて蒸す、パッケージに絵を描く、ほくして味をつけ、型に

つめる、油で揚げる、一連の行程を調理実習しながらみんなで楽しみました。家に持ち帰って食べたチキンラーメンとカップヌードル、いつもより数段美味しく感じました。

昼食は南港、大阪府庁が入るコスモタワー48階にある「ワールドビュッフェ」。曇り空でしたが、48階から眺める景色と共に種類のビュッフェ料理を楽しみました。

お腹がいっぱいになった後は「ハグミュージアム」へ。こちらでは大阪ガスの最新設備を紹介しています。昔はこんな部屋だったなあ、新しいこんな部屋がいいなあ、いろんな施設をみんなでワイワイ体験しました。最後は最新ガスコンロで調理実習、お好み焼きを作りました。



里子

戴 琪芸 (中国)



初めて「さとおや」という言葉を聞いた時、私はびっくりしました。それは「親(おや)」という言葉が入っているので、親は私たちにとって大切な人だからです。

留学生活には、楽しいこともあれば、寂しいこともあるでしょう。その寂しさに

勝つために、私はたくさんの交流活動に参加していました。そこで、私の里親さんと出逢うことができ、この一年間ずっとお世話になっております。更に、里親さんだけでなく、もう一人の同じくらいの年齢の里子とも友達になりました。夏休みの時、一緒に勉強会をしたり、料理をお互いに作って食べたりして、楽しく過ごしました。週末やクリスマスの時は里親さんと一緒に街中を散歩したり、お食事に招待していただきました。いつもすみませんという気持ちですが、里親さんが「これこそ親でしょう」と言われたので、とても感動しました。

今年の新年会の時、ちょうど私は成人になりました。着物を着せていただいて、里親さんとたくさんの方々から助けられました。着物を着たら腰も曲がらなくなって、胸もキュンと締めつけ

られて深呼吸ができないくらいでした。着物を着ながら、甘くて美味しいサーターアンダギーを食べました。私の里親さんはお料理が上手で、もちろんこの「サーターアンダギー」という沖縄のドーナツも私の里親さんに作ってもらいました。そして、ゲームをしたり、話をしたりして新年会を楽しみました。着物を着るのは大変でしたが、とても貴重な経験になりました。

里親さんと一緒に過ごした時間の楽しさは言葉では言い尽くせないくらいあります。「留学生さとおやの会」というこのプログラムに参加して良かったと思います。

たくさんの人と出会って、交流を通して日本語能力もレベルアップしながら、日本の伝統文化や歴史も理解できるようになっています。これからもずっと感謝の気持ちを持ちながら、里親さんと一緒にこの特別な「家族」とつながってたいです。



ムリヤブトラ テッド ドナルド (インドネシア)



私が日本に留学した理由の一つは、日本の文化や生活習慣を実際に学びたいということです。ですから、初めてこのホストファミリープログラムのことを聞いた時に、絶対に参加しようと思いました。そして、私は田仲さんと出会いました。私は田仲さんの家族に選ばれて本当によかったと思います。

田仲さんの家族はみんな親切で、よく私を家に誘ってくれて、おいしい料理をごちそうしてくれたり、他の日本人の友達を紹介してくれたりしました。そのほかにも、私たちは一緒に色々なところに行きました。例えば京都の祇園祭や高槻市の祭りなどです。にぎやかな祭りを歩きながら、祭りについて色々教えてくれ、たくさん写真も撮って、本当に楽しかったです。また、秋にも一緒にカップラーメンミュージアムに行きました。そこでは自分が好きなインスタントラーメンが作れるのですが、私はやったことが



なかったのが最初は難しかったです。でも、お母さんが丁寧に教えてくれたおかげで、やっと自分のラーメンができました。そして、ラーメンの袋をマジックでデザインしました。お母さんはきれいな紅葉を描いたので、私も負けたくなくてきれいな絵を描こうと思いましたが、そもそも絵が下手な私は結局変な熊を描いてしまいました。デザインが完成した後で私たちは一緒にそれぞれの作品を持って、写真を撮りました。これはなかなか体験できないことなので、一緒に行けて本当によかったと思います。

このホストファミリープログラムを通して、日本人のあたたかさや日本の文化のおもしろさを実際に味わうことができ、日本がもっと好きになりました。まだしばらく日本にいますので、日本語の勉強はもちろん、日本でしかできないことに色々挑戦していきたいです。

タン ムイ チュー (カンボジア)



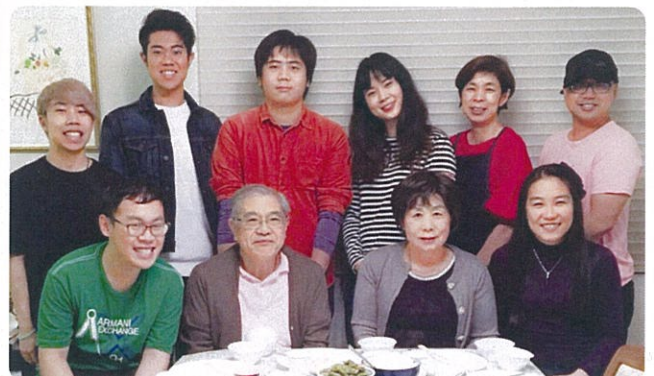
2017年4月に日本に来た私は日本で家族ができるとは思いませんでした。学校を通じてホストファミリープログラムに申し込みました。先生が「あなたには日本人の家族ができます。これがあなたの新しい両親と

兄弟です。」と言いながら、写真を見せてくれました。それを見た時、胸がどきどきし、とてもうれしかったです。会う前は心配しました。里親はどんな人か、ほかの里子はどんな人達なのか、私のことを好きになってくれるかなどいろいろなことを考えました。残念なこと初めてみんなで集まる日にはどの里子にも会えませんでした。みんな

な試験で来られなくなってしまったのです。しかたがないので私は一人で行きました。駅に着いた時、大きな紙に私の名前が書いてあるのを見ました。その紙を持っている方がお母さんでした。里親のお母さんは私を迎えに来てくれたのです。とてもうれ



しかったです。初回と二回目の出会いは私一人でした。三回目になってやっとみんな集まりました。大家族になりました。私たちは食事をしながらいろいろなことを話しました。お母さんは困ったことはないか、日本の留學生生活はどうかなど会うたびに聞いてくれました。私は「もう大丈夫だと思います。家族がいますから。」と言いました。心配してもらってうれしかったです。そして毎月一回みんなで集まることになりました。月一回でもいろいろな経験ができました。例えば、一緒に料理を作ったり、着物を着せてもらったり、歌を歌ったりしました。私にとってとても素晴らしい一年でした。私は日本に来てから勉強だけでなく、いろいろなことを教えてもらいました。ホストファミリーのおかげでいろいろなことがわかるようになりました。感謝しています。とても有意義な一年でした。本当にありがとうございました。





留学生(里子)のプロフィールを頂いた時、思わず親近感が沸きました。色々な国に興味は尽きませんが、里子さんの出身国が私たちの大好きな台湾だったからです。美味しい台湾スイーツ、台湾南部ケンティンのリゾートについても聞きたいな~と思うと同時に、何分はじめての里親経験なので私たちでお役に立てるコトがあるのか、困った時に力になれるのかなど、気にしながらも里子さんが好きという唐揚げやサラダなど用意してドキドキの夕食会を迎えました。

里子さんは知的でクールな印象の中に台湾らしい温もりのある人柄。食卓の準備を手伝ってくれたり、言葉がつまった時にはさりげなく会話を進めてくれたりと優しい心配りが出来る里子さんに家族皆がすぐに打ち解けて、あっと言う間の楽しい時間を過ごしました。その日から、次に逢う時はどんな話を聞かしてくれるのかな?今は何を勉強しているのかな?と遊びに来てくれる日を楽しみにしています。私たち家族も里子さんの地球規模で学び活躍する大きな

夢に刺激を受け視野が広がった様に思います。

そんな優秀な里子さんにも日本の生活で不思議に思う出来事やとまどう事もあるようで(日本ではどうして電話中に見えない相手にお辞儀をするのか?スーパーや百貨店で、売り場に向かってお辞儀をするのか?また友達同士の付き合いで、夜明かしのカラオケは当たり前?など)幸い私たちが答えられる素朴な質問や疑問で安心しました(笑)。里子さんには、「久しぶりに家庭の雰囲気味わえて楽しかったです。」と言われ、こんなにしっかりしていても、ホームシックはあるのだな。と感じました。

里親会をきっかけにステキな刺激と経験、友情をいただき嬉しく存じます。この場をお借りして留学生さとおやの会関係者各位に厚くお礼申し上げます。有難うございました。



田中 己穂 (奈良県北葛城郡)



私が留学生さとおやの会に入会してから、5年目を迎えました。

かねてから異文化交流に興味があったので、事務局の松井さんからお話を伺ってすぐに入会させて頂きました。すでに遠い昔の思い出

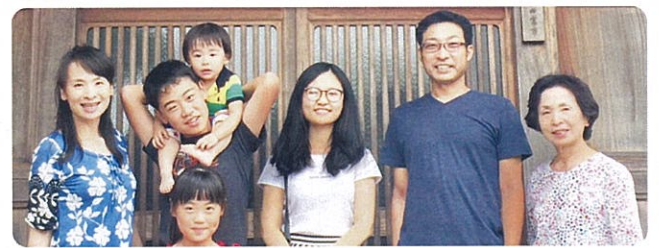
になってしまいましたが、私は15歳の時に初めて海外留学をしました。その時お世話になったのが、カナダのビクトリア島という美しい街でのホームステイでした。ホストファミリーの温かい家庭でのびのびと生活させて頂き、ホストマザーに小さい子供たちと一緒に英語の発音を直してもらったりしたのは生涯の思い出となりました。そのような経験に恩返し出来るよう、いつか私も学生さんを迎えたいと思っていたので、さとおやの会へのお誘いはホストファミリーの第一歩としてとても嬉しいお誘いでした。

留学生さとおやの会より御縁をいただいた学生さんたちは、み

なさん真面目で、ちょっと年の離れたかわいい妹のようです。受験勉強の相談にのったり、お出掛けしたり恋愛トークしたりと楽しく活動しています。現在近くにいる里子は、ベトナム人のハンちゃん、香港人のヘイちゃん、ナイジェル君です。3人もずいぶん日本語が上手くなり、学校も決まって順調に日本の生活を楽しんでくれているようです。家で食事をするときには、私の母親や妹家族も一緒に、大家族になることもあります。家族と遠く離れている留学生にとって、少しでもほっとする場になればと思っています。

さとおやの会主催の遠足や新年交流会は、ほかの方々との交流も楽しく、よく参加させて頂いています。いつも楽しい企画や、写真撮影など気配りいただき、事務局の皆様には感謝いたします。

未筆になりましたが、留学生さとおやの会のご発展と会員の皆様方のますますの交流とご活躍を祈念致します。



編集
後記

新年交流会では初めて着物を着て大喜びの留学生たちに接する事ができました。とても嬉しい瞬間でした。今年の留学生さとおやの会としての一連の行事も無事に終了する事ができました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。今後とも引き続きよろしく願いいたします。

発足して丸15年が経過しました。会員の方も個人会員51名、法人会員30社、賛助会員10校という現状です。更に活発な活動ができます様に、新たな会員の方々をご紹介いただきたく、どうぞよろしく願いいたします。たくさんの方々に、身近に真の国際交流を体験していただけたらと願っています。

(事務局)